

令和8年度第1回酒田市介護保険運営協議会 会議録

- ・日時

令和8年7月15日（水）午後2時45分～午後3時50分

- ・場所

酒田市役所 第2委員会室

- ・出席者

黒澤勲委員、今野紀子委員、足達武男委員、鈴木淳一委員、奥山悟委員、
菊池裕基委員、村上悦美委員、矢島慎也委員、佐藤ルミ子委員、伊藤春恵委員
欠席：佐藤真紀委員

- ・事務局

健康福祉部 小田医療介護連携調整監

高齢者支援課 齋藤課長、船越補佐、鈴木主査、佐藤主査、池田主査、
堀係長、阿部主任

1 開会

2 あいさつ

3 会長の選出及び会長職務代理者の指名

会長 互選により、菊池裕基委員を選出

会長職務代理者 会長により、足達武男委員を指名

4 協議

（1）令和7年度酒田市介護保険事業実施状況について

～ 資料説明 ～

（菊池会長）

ただいまの説明について、委員の皆様からご質問、ご意見等がありますでしょうか。

～ なし ～

（2）令和7年度介護保険特別会計決算見込みについて

（3）第9期介護保険事業計画の進捗管理について

～ 資料説明 ～

（菊池会長）

この2つについて併せて説明がありましたが、ご質問、ご意見等がありますでしょうか。

～ なし ～

5 報告

(1) 令和8年度市民認知症講演会の実施について

～ 資料説明 ～

(菊池会長)

何かご質問ご意見等あれば、お受けしたいと思います。この講演会は毎年しているのでしょうか。

(事務局)

認知症講演会については隔年開催にしております。令和7年度はありませんでしたが、8年度に行うものです。

先ほどの計画策定懇話会（第1回酒田市高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画及び認知症施策推進計画策定に関する懇話会）の方でも重度の認知症で生活に支障がある高齢者数は減っているということを申し上げました。国の方でも、日常生活は送っているものの、軽度の認知症にある方は、潜在的にかなりおり、そうした方の予防的な対策がこれからは重要になってくるという計画を立てていますので、こうしたことから今年度、軽度の方々について市民の方から理解をいただき、市としてどのように取り組んでいくかというところを勉強したいと思っています。

(菊池会長)

軽度でも、症状が進むと、重度になっていくのしょうから、早めの取り組みを、ということだと思います。広くPRしてもらえればと思います。他に、よろしいでしょうか。

～ なし ～

(2) 令和8年度酒田市介護サービス事業者連絡協議会研修会・意見交換会の実施について

～ 資料説明 ～

(菊池会長)

この件について、皆さまからご意見ご質問等がありますでしょうか。これも、さきほどと同じ8月25日の開催となるのですね。

(事務局)

講師の都合上、ハローワーク酒田さんと講演会の先生について、同じ日になりました。対象者としましては、介護サービス事業所連絡協議会の方は、主に事業所にお勤めになっている方を対象とし、市民認知症講演会については、一般の市民の方からの参加ということで呼びかけさせていただければと考えます。関心のある介護サービス事業所の方々には、認知症講演会でも参加できる方もいらっしゃると思うのですが、このような開催日の設定になったことは今後課題として反省したいと思います。このように、参加者対象者を分けて設定して、PRして進めていければと考えております。

(菊池会長)

この研修会は、久々に行うのですか。

(事務局)

研修会については、令和7年12月に、一つの部会（訪問部会）で意見交換をさせていただきました。コロナ禍においては対面が規制された事情がありましたが、令和7年度、そして令和8年度と、だんだんと活動を元の形に、なおかつ今の時勢に合った形にして、活動を進めてまいりたいと考えています。

(伊藤委員)

研修会のテーマは、介護サービス事業所連絡協議会の方々が決めた内容なのでしょうか。

(事務局)

テーマについては、いくつかの介護事業所の方々から、人材の確保という点で非常に苦慮しているというお声を実際にお聞きする場面がありました。求人を出しても、なかなか思うように集まらない、就職してもらっても、定着していかない。事業所としての育成を、どのようにしていけばいいのかというお悩みの声を頂戴することがありました。そういったご意見を踏まえ、事務局として、ハローワーク酒田さんと相談の上で、このような内容を設定させていただきました。

(菊池会長)

他にありますでしょうか。

～ なし ～

(3) 介護サービス事業者に対する緊急的な支援について

～ 資料説明 ～

(菊池会長)

物価高騰が続いているということでの支援だと思います。皆様の方からご質問等ありますでしょうか。

～ なし ～

(菊池会長)

それでは、「報告」は、以上で終了します。全体的に、皆さまの方から何かありますでしょうか。

(今野委員)

猛暑の中、高齢者が若い人たちと住んでいるのではなく、高齢者だけで住んでいる世帯も多いのですが、水分の摂取や、エアコンの適切な手法とか、そうしたことについては、デイサービスに行っていたり、施設に入所したりしていれば、日中はそこで対処できると思います。また、自宅にいながら熱中症になるというケースも、テレビで見ることが多いのですが、こうした方たちに指導する、教えていくというのは、どのようにしているのか、教えてほしいのですが。

(事務局)

熱中症対策ということで、近年猛暑も続いておりまして、具体的にはサービス利用

してる方々については、デイサービスのお迎えときに、事前にバイタルチェックをする、またはホームヘルパーさんが入るといことがあります。サービスを使っていない方については心配されるところでありまして、酒田市の場合、地域包括支援センターの職員が熱中症アンバサダーということで、大塚製薬さんと協力をしまして、熱中症の対応についての研修を受けておりまして、そうした職員の方が訪問のときに声掛けをするなどの対応をとっているところです。ただ、実際のところは、お会いになったときへの対応は、やはり普段からの地域の中での見守りが一番と思っております、こうした点は民生委員さん、福祉協力員さんの方々からの声かけの力が、酒田市でも大きいのかなと思っています。こうした関係機関の方々との連携を通じまして、リスクの高い方などの情報がありましたら、それぞれに個別対応をしているという状況です。なお参考ですが、山形県の方で今年度、低所得者を対象としたエアコン設置の助成を始めたところでありまして、酒田市の方でも地域包括支援センター、ケアマネジャーさんと打ち合わせをしたところです。先日も、その手続き方法について酒田市に問い合わせがあったりするなど、市民の方々も、そうしたことに注意を払って生活をされているのだなと思ったところです。

(黒澤委員)

エアコンのことに、お年寄りで、自分では熱さ、寒さを感じられなくて、暖房をつけている人もいます。エアコンを設置する、設置しないというのは、電気代のこともあるのではないかと思います。一方的にエアコンをつけなきゃだめだと言うのは簡単ですが、その電気代の補助も考えてほしいと思います。

(事務局)

冬期間であれば、低所得者向けの灯油助成がありますので、そうした方々の夏場について、こうしたリスクがあるのだということを勉強したところですので、今後参考にさせていただければと思います。

(村上委員)

昨年度の最後のこの協議会でのことだったかと思うのですが、地域包括支援センターの職員に対しての、一人ひとりの専門職員に対しての抱え込みですとか、そういったものがないようにということで、そういう会議を持ちたいという話題があったかと思います。今年度に入ってから取り組みだったかと思うのですが、今年度に入ってからその実施状況ですとか、もしまだであれば、これからの予定があれば伺いしたいと思います。

(事務局)

地域包括支援センター職員の資質向上的なところで申し上げますと、今年度体系的に、専門職研修ということで、全体研修を6月に初回ということで行ったところで、これからも順次全体の研修を3回程度予定しています。また、それぞれの3職種、保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士という専門職の研修も、年間開設ということで実施しまして、地域包括支援センターの資質向上というところと、市の後方支援ということで実施を予定しているところです。また、抱え込みといいますと、権利擁護

的な成年後見のところであるとか、地域包括支援センターも窓口として相談に乗り、専門的なところに繋げるという話も少し含まれないのかなと思っていました。先ほど酒田市社会福祉協議会さんが設置しました権利擁護・成年後見センターと、市の方でも虐待の相談となれば、地区担当職員が同行し、ケースについては、市の方で引きとってその後の対応をしていくということもありますので、そういった意味での抱え込みがなくなるように努めてまいりたいと思います。

（黒澤委員）

施設の労働者不足が今話題になっていますが、働き手がいらないために受け入れる人を減らすということがあるようです。先の意見交換会での、人材確保についてという話も結構だと思うのですが、具体的な策として、外国人労働者を採用する際の補助金のようなものを設けて、雇用しやすくする。衣食住や車の免許などの問題がありますが、具体的なツールはありますでしょうか。

（事務局）

市内でも、数年前と比べますと外国人介護人材が増えています。その中で困っていることは、やはり日本語の習得、住居のこと、仲介事業者への費用もかかるということで、それでも施設サービスを維持するためにということでご苦労されているというところを伺っています。支援策としましては、国から県単位の補助事業ということであり、市町村にはそういった事業が直接降りてこない状況にありまして、例えば市共生社会課で行っております、資格を取るため、日常生活を送るための日本語教室、商工港湾課の方では、人材支援ということに繋がるための補助であるとか、こうしたところを市として紹介をしていく状況にあります。

（黒澤委員）

市単独で予算を出して、独自でやるというのは。

（事務局）

限りある財源の中でということになります。今のところは、県補助のメニューとしてあるものを使っていただくのが、まずは一番だと思っています。市としての具体例を申し上げますと、例えば市営アパートの空いているところに入れられないのか、といった相談は受けております。ただ、市営住宅の管理に関する様々な法律の規制などがありまして、すぐには貸せないとか、そういったところの間に入っている調整はこれからもしていきたいと思いますが、今のところ直接的に助成をするということには至っておりません。

（菊池会長）

ほかにありませんか。

～ なし ～

それでは、進行を事務局にお返しします。

6 その他

（事務局）

次第の「6 その他」として、皆さまから何かございますでしょうか。

(伊藤委員)

認定審査会で認定が出るまで42日間ということで、先ほどの説明でお話があったと思うのですが、これはいつの時点で、昨年と比べると人数的には減っているのでしょうか。

(事務局)

令和6年度公表が42日間、7年度公表が36日程度というところで、そういう意味では短縮をしている状況にあります。前回の協議会で、医師の意見書をもらうまでの日数、調査をするまでの日数、それらが揃ってからの日数ということでお示したと思いますが、酒田市の方で課題として思っているのは、全て資料が揃ってから開催するまでが、少し時間がかかっているというところです。審査会を電子化するなどによって、短縮していければと思っています。また、特別この方を急いでもらいたいという個別事情については対応したいと思っております。審査会を電子化し、資料も電子化し、当日電送してそのまま審査ということも個別対応しておりますので、そういう全体的な短縮と、個別的なものへの対応というところで、少しでも利用者のご希望に沿えればと、取り組んでいるところです。

(今野委員)

今年の5月下旬から防災気象情報が新しくなり、広報にも載ったり、メディアでも流れたりしてはいるのですが、やはり命を預かる施設、学校もそうですが、こうした施設で、この情報がきちんと、職員の皆さんがしっかりと把握しているのかなと。ポスターはあったのですが、この更新になる前のものが貼られていて、おや、というところがありました。そこは各施設に委ねられていると思うのですが、やはり新しくなりましたという宣伝だけではなく、実際にどこまで利用者さんを守るのかというところで、どうなのかなと思ったのですけれども、これが市の危機管理課の管轄なのかはわかりませんが、こうした疑問を抱きました。

(事務局)

防災気象情報は、改めて考え直さないといけませんし、施設も困っているのだと思います。その点は各施設で、おそらく業務継続計画の一環としてそのような状況になったときの対応というのは定めていると思うのですが、そういったものは更新いただけるようにお知らせはしたいと思います。

(村上委員)

その辺の通達の方は来ていまして、それを受け、まず防火管理委員会という委員会がありますが、その管理者からの全体への発信ということで、防災マニュアルの方も入れ替えをして、皆さんに研修をして周知しているところです。実際の訓練というところは、今年度の防災計画の中で進めていこうと思っています。

(事務局)

ほかにありますか。

それでは以上をもちまして、第1回酒田市介護保険運営協議会を閉会いたします。

この協議会の第2回目の会議は、来年2月頃の開催を予定しております。本日はありがとうございました。